

## 分析センターの落成を祝う

海老根 誠 治

新しい分析手段が開発されると、それに伴って大きな学問の進歩が見られるのが常である。例えば F・Pregl の有機微量元素分析法の開発によって、天然有機化合物の化学が急速に進歩した等。さて近年 IR, NMR, MS, X線回折など多様な機器による分析技術が化学の分野に導入されるようになって、化学研究上に目を眩るような急速な進歩発展がもたらされた、この様な時代の趨勢に即応して、本学に昭和55年に分析センターが設置された。分析センターは学内の大型分析機器を集中管理して円滑な活用を図るのが目的である。しかし本学の場合、センター設置以来今日まで組織だけがあって専用の建物が無かったため、分析機器が理、工学部の各学科に分散していて、集中管理という所期の目的が達成し難い状況にあった。また、今後大型分析機器を新規に購入しても学部側にこれ以上機器を収納するスペースが無くなっていた。このため分析センターの建物が早くできることが望まれていたのである。しかし拙速に事を運んで小さい建物が学内の不適當な場所に建ったのでは、センターの機能が果せなくなる恐れがあった。幸いこのたび関係各位のご尽力によって、情報処理センターと合併して、学内の最も適切な場所に立派な建物が完成する運びとなったことはご同慶に堪えない。念願の建物ができることによってセンターに関わる幾つかの問題は解決するが、しかし専任の教職員の陣容が少ないことはなお大きな悩みとして残るだろう。センターを利用する研究者各位におかれてはこの点を配慮して、センターに協力しながら機器を利用するという心構えが必要と考える。何はともあれ、講座増も学科増も極めて困難な時節柄、本学に立派なセンターの建物が落成したことは大学の発展（並びにイメージアップ）のために誠に喜ばしいことであって、心からお祝い申し上げます。